

# 静岡大学理学同窓会 第1回東京支部 講演会・懇親会



大岩校舎 文理学部



理学部キャンパス

平成26年5月24日(土) 17:30 ~ 21:00  
於:アルカディア市ヶ谷(私学会館)

## I 部：講演会

17:30

主催者挨拶 藤岡換太郎 支部長

17:35

来賓挨拶 浅野同窓会長

17:40

講演1 和田秀樹 名誉教授

18:20

講演2 奥野健二 名誉教授

19:00

閉会

♪♪♪♪♪♪ . . . 写真撮影 . . . . . ♪♪♪♪♪♪

## II 部：懇親会

19:05

来賓紹介・挨拶 (他学部同窓会な

ど)

19:15

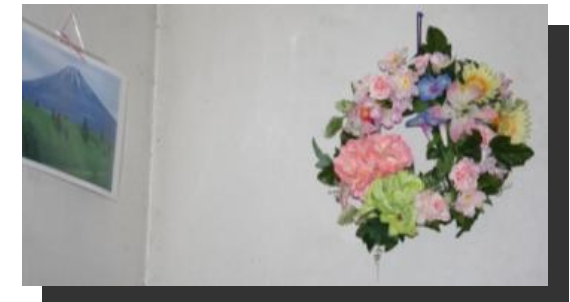
乾杯・会食・歓談

19:40

余興・展示物紹介・参加者紹介

20:55

閉会



全員集合 ; 45名がそろって・・・老いも若きも



S54地 H17物 S42物 H01地 S60地 S56地 S60地 S60地 S50地 S50地 S60地 S41数 H14数  
 飯島氏 久米氏 小笠原氏 原口氏 落合氏 佐伯氏 太田氏 湯本氏 鈴木(清)氏 下川氏 高橋氏 工藤氏 西島氏  
 S42数 H15地 S45物 S42物 S41物 S42物 S54化 S47化 H01院地 S43化 S40物  
 山川さん 松浦さん 志田原氏 富岡氏 吉村氏 玉江氏 足立氏 野村氏 竹内氏 宮前氏 阿仁屋氏  
 S41数 S41生 H07化 S40物 S41化 S42物 文理 S42物 S41物 H14数 S41生  
 山本氏 長谷川氏 島田さん 上原氏 中道氏 西田氏 榊原氏 西本氏 比田井氏 富本さん 秋田さん  
 S41化 文理 人文 工学 S43地 S43化 S43物 S43地 人文 文理  
 鈴木(孝)氏 河原崎氏 高橋氏 藤嶋氏 藤岡氏 奥村氏 浅野氏 和田氏 福島氏 堀氏

## 第1回 理学同窓会東京支部 の開催

**藤岡支部長** ; 世界遺産になった富士山を毎日眺めながら過ごした学生生活の思い出を語り合うのもいいでしょう。年代を経た今、また新たなコミュニティが生まれるのではないのでしょうか。

**浅野会長** ; 静岡大学も昭和24年6月に開校してから、まもなく65年目。理学部も文理学部を改組してから49年目を迎えます。



長谷川幹事 開催の言



藤岡支部長 開催にあたって



浅野同窓会長 同窓会によせて

# 講演1； 私の同位体地球化学の44年

## 元素に付けられた目印を追う

放射性炭素； $^{14}\text{C}$ 年代測定法を開発、

$^{14}\text{C}$ は生成と崩壊のバランスが保たれるため、安定した年代測定法のひとつとなる。 $^{14}\text{C}$ 年代測定法を用いて、富士山の噴火活動史や海洋深層水大循環を解き明かすことができた。

$^{14}\text{C}$ 年代測定法のカバー範囲は1～2万年であり、46億年の地球歴史からは末端の世界である。人類の活動が生み出す物質が地球環境とどのように関わってくるかはわかっていない。



和田教授



# 静岡大学と地学教室

書籍展示物・和田教授講演時紹介



○ 静岡大学の10年 1999-2009

○ 静岡大学十年史

理学部史 編纂予定  
請うご期待

○ 東風吹かば・・・  
パイプの煙と  
茶の香りと  
追悼 池谷仙之 先生  
(参加者5名がカンパ協力)



○ 地球科学 503号室の思い出



## 講演2； 放射科学研究施設での17年間

放射科学研究施設の「科学」は、発足後しばらくはケミカル；「化学」であった。ビキニ海域での水爆実験による第五福竜丸乗組員被災を契機に設立。

現在は、放射線や放射線核種を利用した基礎的応用的研究と安全な取り扱いのために必要とする科学全般にわたる教育を行っている。また、浜岡原発の安全審査など地方大学として地域への貢献も求められている。



奥野教授



## トリチウムをやりなさい！ ～ 30余年の研究紹介 奥野教授講演

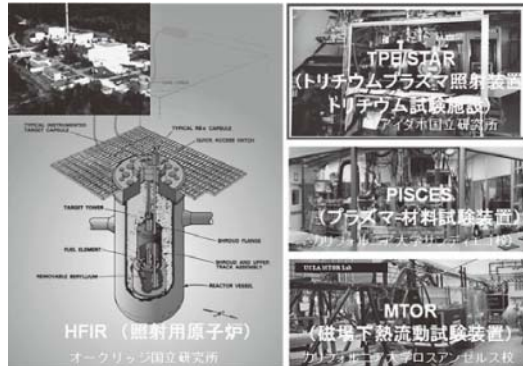


焼津港 停泊中の第五福竜丸

第五福竜丸の焼津入港時に放射能測定をした、塩川孝信先生のひと言；「トリチウムをやりなさい！」から、30余年の研究人生がはじまった。

ウランの核分裂とは異なり、トリチウムは核融合に必要な夢と言われた燃料。核融合炉内のトリチウム状態は、プラズマ、気体、流体、固体において存在し、多岐にわたる。

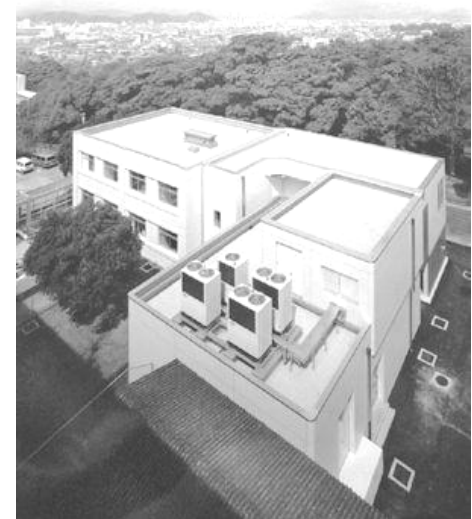
炉内のトリチウム挙動把握のため、分析・測定の要素技術を確立。将来の核融合炉の運転状況の監視および安全確保の課題について、いくつかの日米共同プロジェクトに参加し、検討してきた。



TITAN(磁場及び慣性核融合炉システム  
トリチウム熱流動制御; FY2007~2012)計画  
の使用装置

実験・試験施設は米国にあり、研究協力ではあっても、簡単にトリチウムにアクセスできるわけではなく、取り扱い経験を積むことができたかは疑問。

施設がフランスに整備される国際熱核融合炉(ITER)についても同様のことがいえそうで、関わり方に工夫が必要と思われる。



現在の放射科学研究施設

## 受付での風景

名札プレートをお忘れなく！



(代田さん[右端]番外でのお手伝い)



# 同窓生

## 書籍展示物

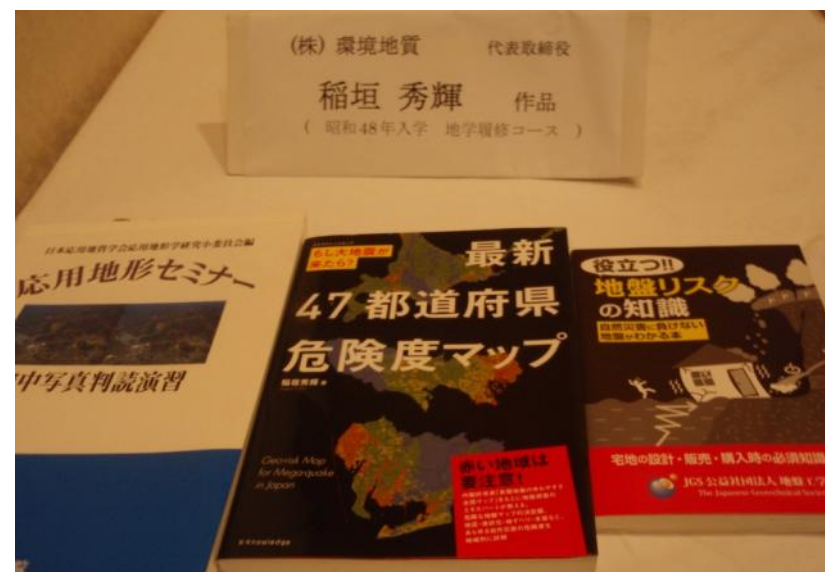


海はどうしてできたのか  
山はどうしてできるのか

藤岡換太郎（S42地学）



長谷川隆義（S41生物学）



稲川秀輝（S49地学）

文藝春秋 第八十八巻 第十六号

# 最後の日本寮歌祭に 思ふ

中曾根 康弘  
(元内閣総理大臣)

十月十一日、昭和三十六年  
以来五十回続いた日本寮歌祭  
が終った。五十年間実行委員  
会会長として全国の旧制高校  
出身者の意見を聞き、難問統  
出の中を東へてきた神津康雄  
氏と事務局諸兄のご苦労と友  
情に心からお礼を申し上げた  
い。

昭和二十五年、旧制高校は  
幕を閉じ、戦後は新制度の高  
等教育が始まったが、それま  
での教育制度はGHQの占領  
政策で一掃され、日本の伝統  
的教育も精神も、全人格的人  
間教育も一掃くたに霧のよう

に消えてしまった気がする。  
嘗ての熱き青春を懐かしがる  
のは我々旧制高校卒業生だけ  
ではない、昔の通しき高校生  
像を垣間見ようとしてか、旧  
制高校を知らない世代が失わ  
れた日本に憧憬を抱くかのよ  
うにこの最後の寮歌祭に参加  
し、九百人を超える盛会だっ  
た。

難問統出する中と言った  
が、神津会長の話では毎年論  
争が起きたらしい。何でも自  
由気儘に言い合える仲間意識  
故であり、それこそ旧制高  
校の特徴かも知れぬ。今回も  
青年の眼差しで口角泡を飛ば  
し熱弁を奮っている者達がい  
たるところに居た。

戦前に高校生活を送った  
我々にとって、あの頃はとり  
わけ懐かしい時代だった。世  
の中は日支事変から日中戦争  
に突入し、次第に緊張した暗

きを予見するような時代であ  
ったが、我々は屈託なく青春  
を謳歌し、又時代を論じた。  
日本中が一つの方向へ流れて  
いくなかで、我々学生は真面  
目に哲学、文学、時代を論  
じ、体育に励みながらもユー  
モアのセンスと余裕を失わな  
い良さや、冷静さの多元人間  
性と多元社会性を堅持してい  
た。そんな時代の卒業生達の  
心に今去来するものは、高校  
周辺の風景や町の様子、古び  
た木造校舎の黴臭さ、学生寮  
の日向に干した洗濯物手拭い  
の列などの些細な記憶かもしれ  
ない。

私が今も思い出すのは、昔  
の静岡駅舎や駅前小さな町  
並み、浅間神社である。とり  
わけ、松原と煙を上げて航行  
する汽船のはるか頭上に雪を  
抱いてぽっかり浮かんでいる  
富士山の清々しさは学生時代  
の原風景である。

高校時代で一つの時間が止  
まっている。寮歌祭に参加し  
た各旧制高校卒業生達も、当  
時に戻ってあの頃の自由奔放  
さと真面目さと何処か垢抜  
けないパンカラと呼ばれた夫々  
の青春を自分たちの寮歌を存  
分に歌って昔の時期に浸って  
いたといえるだろう。

旧制高校を曰く教養主義と  
云うが、果たしてそれ程こだ  
わったものでもない。寮生活  
で揉まれ、学祭やスポーツ、  
ストームや評論や町遊びに没  
頭し、興味の尽きることなく  
議論していれば、真実を知ら  
ないと先に進まないのでもや  
たらと本を読む、論破しよう  
として本を読む。又口先でな  
い糧をとり、無銭旅行に出た  
り、可能性を探り、衝動に駆  
られ、やれそうもないことに  
挑戦してみる。それが若さで  
あり、青春というもののだろ

## 仰 秀 寮

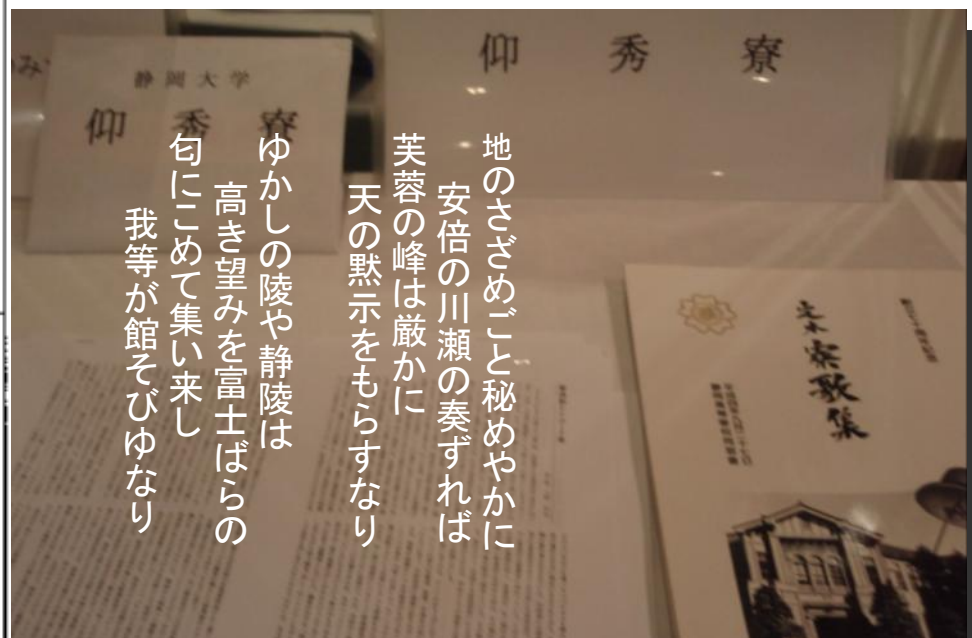
## 展示物

寮歌祭 寄稿文(文芸春秋)  
中曾根元総理大臣  
(旧制 静岡高校 仰秀寮生)



本会参加者のうち、  
10名が仰秀寮生。

歌集、寮誌など展示



## 講演会場 全員集合して・・・



祝辞： 福島 英夫氏 岳陵会静岡支部長



理学同窓会東京支部のはじめての同窓会が  
45名におよぶ多数の出席者を迎えて、  
盛大に開催されたことを、お慶び申し上げます。



**祝辞；藤嶋 善彦 氏 浜松工業会東京副支部長**



本会を契機に理学部におかれましても、  
同業・異業の同窓生の情報交換が活発に行われ、  
静岡大学全体の価値向上となることを願っております。



理学部1期生 上原 和也 氏 尺八と乾杯



自宅の練習では、完璧にうまく  
吹けたのになあ～ ♪

とりあえず、乾杯だにゃ！





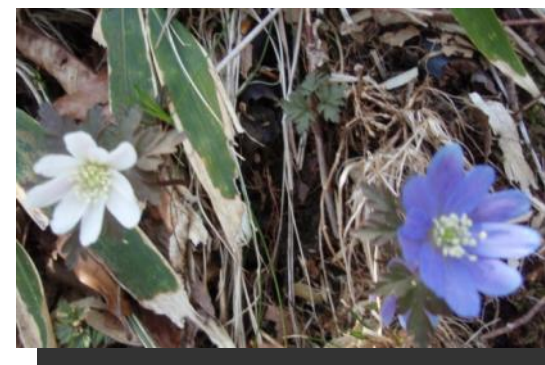
## はじめての東京での同窓会に 贈る言葉

石川 元理学部長 (出席できないことを伝えるメールにて)

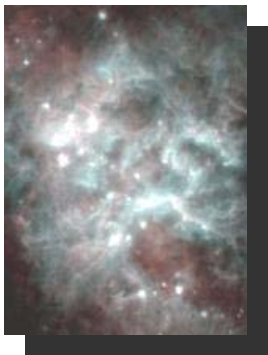
歴史を作りだす「生みの苦しみ」・・・45名の同窓生を迎えての開会の運びとなり、お喜ばしいことと存じます。

＜はじめて＞ 何か事を起すにあたって、研究や教育の世界のみならずどの世界でも、同じような経緯を経ていくものです。理学部育ちは、長い目で眺める力が殊の外、身についています。「継続は力なり」。

＜同窓会＞ は、同窓生が  
努めて殻に閉じこもらないためにも、いまそしてこれから一層求められている人間力が育まれる場の一つだと考えています。・・・略・・・現役として時代を担っておられる同窓生が、年齢を重ねていくうえで、明日を生きる糧となることを願ってやみません。



アズマイチゲ(白)とキクザキイチゲ(青)  
筑波山頂付近



はくちょう座  
星形成のもよう  
(JAXA/ISAS)

## 会食・懇談のひととき



S42入学組



皆さん、物理です！



## 入学は戦後まもなくでしたかなあ～

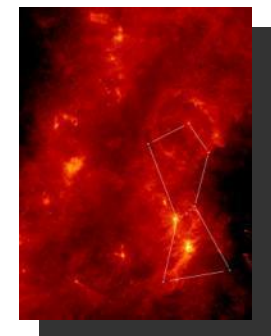
炭火で暖をとるなどまだまだ混乱していた時代でした。

科学・技術に国境はない。若い人は壮大なロマンを抱き、それぞれの活動分野で自信をもって取り組み給へ！・・・

とにかく最後に？言・・・ オルボォワ～、アスタルエゴ、  
アリヴェデルチ、チャイチィ～エン、アウフビィ～ダゼェ～ン！  
・・・ また逢いましょう。



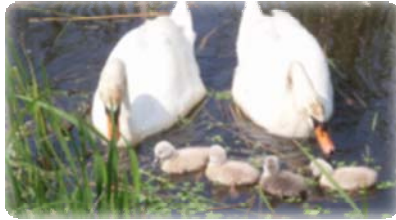
幹事、果然！



天の川 オリオン座  
JAXA/ISAS

幸せが舞い込んだひとときですね・・・♡♡♡

S41入学組 (右)



牛久沼； 白鳥 雛孵る



本日 12時5分；ALOS2 打上げられ、順調に試験運用中！



低い地球観測衛星は、**太陽同期準回帰**という軌道に投入します。軌道面がほぼ**赤道面に直交**して、かつ**太陽に同期**して変化、幾日かを経過して元の上空にもどってくる軌道です。

ALOS2は、14日後の同一時刻に元の上空に戻ります。軌道面が南北であり、下図のように地球全体の観測ができます。

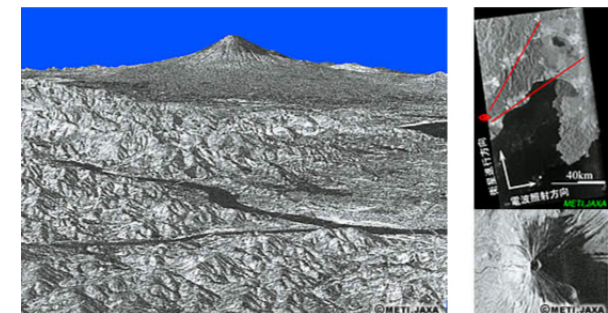
太陽の地表面への入射角が同じ光学画像が得られ、同一条件での経時的な変化を追えます。地球環境の監視に適しています。



合成開口レーダ(SAR)は、昼夜・天候に関係なく森林下の地表面を観測できます(右;富士山の図)。

ALOS2は、解像度もALOS 10m前後から1~3mに向上します。

多彩な分野での利・活用が期待されます。



JAXA SAR 豊後水道上空からの富士山 (ALOS; 平成18年2月15日)



## 宴も進んで

恩師への挨拶もありました。

数学のお二人



放射化学

地球科学





## 宴も、さらに進んで



地球科学 名刺交換



疲れた〜？ 幹事



ティータイム

一本締めで！ ヨオ～



この後、三次会まで行ったそうです。  
ごくろうさまでした。

同窓会の活動は、大学を太陽とするなら、  
月の影のようなものだ。

当夜は上弦の月で、同窓生の帰りの時刻には、  
まだ月は上がっておらず、闇夜でした。

撮影； 鈴木孝利 (S41 化学)  
作成； 山本富嘉 (S41 数学)



牛久沼、桜のむこうにおぼろ月